

ワークショップ：

日本のシミュレーション教育向上のための認定・認証プログラムの開発

シミュレーション教育研修を担当している教職員のネットワークを構築することをめざしたセミナーとワークショップを2018、2019年度に引き続き、2020年度は、第8回学術大会の期間中に、「私たちに必要なシミュレーション教育のための認定・認証プログラムを考える」と題して、日々、シミュレーション教育に従事している教職員をサポートするための学会企画を実施します。

これまでのワークショップの成果を元に、具体的な研修プログラムと認定制度について考えたいと思います。多くの方の積極的なご参加をお待ちしております。

コーディネーター

浜松医科大学医学部 臨床医学教育学 五十嵐寛

ファシリテーター

東京医科大学 医学部看護学科・基礎看護学領域 阿部幸恵

国際医療福祉大学 医学部 医学教育統括センター 石川和信

千葉大学 医学部附属病院 総合医療教育研究センター 朝比奈真由美

帝京大学 医学部 救急医学講座 金子一郎

慈恵会医科大学 救急医学講座 万代康弘

大阪医科大学 医学部 医学教育センター 駒澤伸泰

ミニレクチャー：

- 1 「Society for Simulation in Healthcare の教育認定資格 CHSE」 駒澤伸泰
- 2 「シミュレーションスペシャリスト育成プログラムの実施経験から考える」 万代康弘
- 3 「看護領域におけるシミュレーション指導者講習会の試み」 阿部幸恵
- 4 「全国医学部を対象とした臨床シミュレーション教育に関する調査 2012, 2016, 2020からの考察」 石川和信
- 5 「Society for Simulation in Healthcare (SSH)の国際学会に参加して (IMSH2020)」 金子一郎

ワークショップ

“私たちに必要なシミュレーション教育の指導者養成プログラムを考える”

ワークショップ「日本のシミュレーション教育向上のための認定・認証プログラムの開発」

ミニレクチャー1

Society for Simulation in Healthcare の教育認定資格 CHSE

Society of Simulation in Healthcare (SSH) は施設認定だけでなく、教育者に対する認定である CHSE (certificated healthcare simulation educator) や操作 (技術) 者に対する認定 CHSOS (Certified Healthcare Simulation Operations Specialist) がある。日本で CHSE、CHSOS 認定を受けている教育者は数名であるが、一定の条件をクリアすれば、受験・取得可能である。

筆者は、2015 年のハワイ大学シミュレーションセンター留学時に CHSE を受験し無事合格することができた。当時の経験と、日米の医療教育文化を加味に入れた本邦におけるシミュレーション医療教育認定の在り方を述べたい。

ワークショップ「日本のシミュレーション教育向上のための認定・認証プログラムの開発」
ミニレクチャー2

シミュレーションスペシャリスト育成プログラムの実施経験から考える

東京慈恵会医科大学 救急医学講座 万代康弘

シミュレーション教育において学習環境を整えることが最も大切な要点であると思われる。海外のシミュレーションセンターやスキルスラボの運営形態を分析すると、学習環境を整えるためにシミュレーション教育を組織で運営していく必要があることがわかる。本邦でもシミュレーション教育を導入するにあたってシミュレータなど教育機器が普及したが、シミュレータがあることとそれを有効に活用していることとは必ずしも一致しない。その原因としてシミュレータはシミュレーション教育の 1 要素にすぎず、その他の要素としてシミュレータを有効に活用するサポーターの役割が大切であるという認識がまだまだ普及していないことではないかと考える。

岡山大学では 2012 年の MASCUT Sim 立ち上げから、ハワイ大学シミュレーションセンターのシミュレーションスペシャリストを参考にして、岡山大学の事務職員がその役割として携わった。その後 3 世代にわたり合計 5 名のシミュレーションスペシャリストを養成してきた。その方法についてご紹介する。3 段階の段階的能力向上を計画して合計約 9 か月の養成プログラムを計画した。第 1 段階としてシミュレータの把握のためにシミュレータの把握、研修会の準備と片付け、シミュレータの動作確認。第 2 段階としてシナリオプログラミング、研修会用機材の作成、シミュレータ利用指導、利用マニュアルの作成。第 3 段階では研修会の補助として参加、コース内で指導、e-Learning 教材の作成補助を行った。結果として、2018 年の岡山大学シミュレーションセンターの運営は主に、兼任である運営責任者とシミュレーションスペシャリスト 2 名で MoMo Sim と MASCUT Sim の運営を行い、卒前・卒後、地域医療機関医療スタッフのシミュレーション教育に関わることで年間 2 万人の利用者をサポートすることが可能であった。

また、米国ハワイ大学と岡山大学の連携で開発した Map Sim (Management and Programing for Simulation Training) 研修会の取り組みと、東京医療保健大学の実習としてシミュレーションスペシャリスト養成プログラムを開発したのでご紹介したい。

東京医療保健大学の实習では、Society for Simulation in Healthcare (SSH) の認定資格のコンピテンシーから日本のシミュレーション教育の現状に合わせてコンピテンシーを定めて実習内容を計画した。この取り組みは今後シミュレーションスペシャリストとして認定を行うことを見据えて計画したものである。

米国 SSH では認定制度として確立している役割は、日本のシミュレーション教育においても重要な役割であることを認識することは、今後変わりゆくシミュレーション教育の中で大切な要素であると考えられる。

ワークショップ「日本のシミュレーション教育向上のための認定・認証プログラムの開発」

ミニレクチャー 3

看護領域におけるシミュレーション指導者講習会の試み

東京医科大学医学部看護学科

阿部幸恵

2019 年末から始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、まるで、ドミノ倒しのように、世界中に広まっていった。東京オリンピックは、延期、多くの国で都市封鎖、医療のひっ迫、経済界への打撃と世界が大きく変わってしまった。様々な分野で新たな思考・行動パターンを模索していかねばならない事態となった。特に教育の分野では、子どもたちが教育を受ける機会を奪われ、教員たちは、オンライン授業を可及的に提供している状態だ。9 月入学説も浮上している。教育とは何か、どのような内容をどのような方法で提供したら、予測不可能な事態にも主体的・客観的に社会を見据え、柔軟に対応できることのできる人材を養成できるのかという問いに、我々は、向かい合わなければならない。看護学教育においても同様だ。3 密を避けるという前提で、どのように演習や実習を行っていくのか、多くの教員が模索している。臨床での実習に制限が生じている中、何等かの方法を考えていかねばならない。シミュレーション教育一つの有効な手法となるかもしれない。しかし、対面でのシミュレーション以外のシミュレーションをどのように展開していけばよいのか多くの教員の戸惑いの声を耳にする。だからこそ、シミュレーション教育が、学習者中心の教育であり、学習者が自ら学ぶラーニングを引き出すことを大切にしている点や、シミュレーション教育が、実際の体験で技術を向上するという側面以外に、イメージ化を図り、思考を強化する学びが可能であることに立ち返る必要がある。そして、そこから、新たなシミュレーション教育の方法を多くの教員・指導者らの知恵と工夫で創り上げていくことが求められている。新たなシミュレーション教育を生み出していくこと、これは、従来からこの教育で重要とされたパラダイムシフトである¹⁾。2018 年 10 月に一般社団法人日本看護シミュレーションラーニング学会が発足した²⁾。学会設立の目的は、看護学教育におけるシミュレーション学習の開発、評価、普及に努め、看護学教育の進歩と質の高い看護を実践できる人材育成に寄与することである。学会の主たる事業は、多岐にわたるが、中でも昨年度から精力的に指導者養成研修を展開してきた。この指導者研修の特徴は、国際看護シミュレーションラーニング学会が公表している「INACSL ベストプラクティススタンダード」に沿って指導方法を学ぶことである。研修では、事前学習が課され、e-learning でのテストを全問正解まで繰り返し行い、研修に臨む。そして、研修の終わりに修了試験が課されて基準に到達した者のみに修了証を与えるという形をとってきた。昨年度は、ベーシックコースのみ展開し、本年度からシナリオを作成、指導のブラッシュアップを行うアドバンスコースを展開する予定であったが、コロナ禍を受けて、新たな研修の手法に切り替えて研修再開へ

と歩みを進めている。本ワークショップで実際を紹介したい。

1) 岡谷恵子: 看護教育のパラダイム転換 シミュレーション学習による「深く考え、行動する」看護者の育成に向けて. 看護教育, 60(8), 0600-0608, 2019.

2) 岡谷恵子 阿部幸恵. 日本看護シミュレーションラーニング学会. 看護教育, 60(8), 0609, 2019.

ワークショップ「日本のシミュレーション教育向上のための認定・認証プログラムの開発」
ミニレクチャー4

「全国医学部を対象とした臨床シミュレーション教育に関する調査 2012, 2016, 2020からの考察」

福島学院大学

石川和信

日本におけるシミュレーション医学教育の現状を調査するため、2012年、2016年、2020年の3回にわたり、全国医学部のシミュレーション教育に関するアンケートを実施した。各回の実施母体は異なるが、3回ともに演者が調査責任者を務めた観点で、この期間に私たちの国のシミュレーション教育がどのように展開してきたかについて考察する。

3回の調査ともにアンケートの回答率は90%超であった。スキルスラボ（シミュレーションセンター）の設置状況は、未設置校が2012年4校、2016年2校、2020年0校で、平均施設面積・室数は漸増した。スキルスラボの年間利用医学生数、診療科数も増加したが、スキルスラボの施設面積やシミュレーション教育実践の大学間格差は未だに大きかった。スキルスラボ管理運営する教職員数は減少しており、医学部・大学附属病院でのシミュレーション教育担当教職員の継続的任用が困難で、施設利用に伴う人員拡充と釣り合っていないかった。

模擬患者を内部養成している大学医学部は約80%で、各大学10~40名が活動していた。共用試験（pre-）OSCEの模擬患者としての役割を果たす一方、臨床に近い実践的なシナリオで、医療面接教育を実施している大学は約40%で増えていなかった。また、正式導入される臨床実習後OSCEの身体診察を伴う模擬患者の確保は多くの大学で課題となっていた。

この10年間で、臨床シミュレーション教育の環境整備が進み、シミュレーション教育が一定の役割を果たしていると考えられる。しかしながら、多様な診療状況を反映させる臨床シナリオを設定した学習のカリキュラム導入・評価は、未だ今後の課題と考えられる。学習者のレベルに合わせた難易度で、デブリーフィングにより振り返るシミュレーション教育の特徴を生かした教育を体系化する作業は各診療科の教育実践の積み重ねを待つ必要性を感じる。また、シミュレーション教育の継続は、施設、シミュレータ、物品、専門教員など、財務的、人力的要素の担保が前提である。各大学のstakeholderが、シミュレーション教育の意義と将来性を真に理解することが求められているように思う。

ワークショップ「日本のシミュレーション教育向上のための認定・認証プログラムの開発」
ミニレクチャー5

Society for Simulation in Healthcare (SSH)の国際学会に参加して (IMSH2020)

帝京大学シミュレーション教育研究センター(TSERC)

帝京大学医学部医学教育センター

帝京大学医学部救急医学講座

帝京大学医学部附属病院救命救急センター

金子一郎

米国の国際医療シミュレーション学会 IMSH2020 (International Meeting on Simulation in Healthcare 2020) に参加した。学会の概要を報告するとともに、筆者が参加したセッションと SSH (Society for Simulation in Healthcare) (1) の国際アフィリエイトについての情報交換を報告する。IMSH はその名の通り国際学会であり、多くの国から多数の参加者がある。IMSH2020 の総参加者は 3,156 名、58 カ国から参加している。多職種の学会であり、医師、看護師、救急救命士、薬剤師、その他あらゆる分野の医療関係者が参加している。参加者の詳細は、Administrator 21.5%、Educator 40.7%、Clinician 8.2%、Researcher 7.6%、Operation Specialist 9.8%、以上の兼務 1.2%、その他 10.9%である。米国の医療シミュレーション学会では役割が明確で、それ役割により参加者を分類している点が興味深い。IMSH は今回第 20 回を迎え、米国の医療シミュレーションの進歩とともに成長してきた。この報告により日本のシミュレーション医療教育に携わる方々が IMSH に興味を抱いていただければ幸いであり、多くの医療シミュレーション教育の従事者が医療シミュレーション教育の国際学会に注目し、参加し論議を続けることを望みたい。また、学会の参加のために SSH 会員登録は必須ではないが会員になることを推奨したい。IMSH 参加の動機は様々であろうが、研究演題の投稿を参加のきっかけとすることができる。来年の IMSH2021 (2) の紹介に加えて、日本における医療シミュレーション教育の学会組織、個人認証制度、施設認定についても考察する。

(1) Society for Simulation in Healthcare (SSH), <https://www.ssih.org/> 2020/5/19 アクセス

(2) IMSH2021, <http://imsh2021.org/> 2020/5/19 アクセス